



善和安才老後傳

二編

伍

13
3237
13上



へ 13
3237
13

善知安方忠義傳第二輯卷之五

東都

緑龜館文庫

松亭金水編次

第九回

糸掛勾引さきそ鶴足のくみ至は
正祿浦平あらびも老態を擡げ

蔵書印

語不いそく陰徳ありのの陽報あり積善の家必は修慶あり。とこの聖賢の
教めて毫厘も差ふべきりのる。後にもと傳説のいふ不と去未末三世の
業の望。譬は現世にて慈善を専ら。假初ふも悪りを做さず他は長者と
いそるものも。薄命ゆて不徳疾病を罹り小遭りのありとれ陰徳ありある
が。更不陽報るも不似たり。徳さどの人やお昔の宿業深きより。いふと
償ひぬさるものさびしく勉めて慈善を做さず。其人の代に報ひるくとある。孫不
及びるる。善報あるもの。と浮屠氏の説もまこと宜あり。粵小今長者正祿の庄

善知安方忠義傳第二輯卷之五

〇一

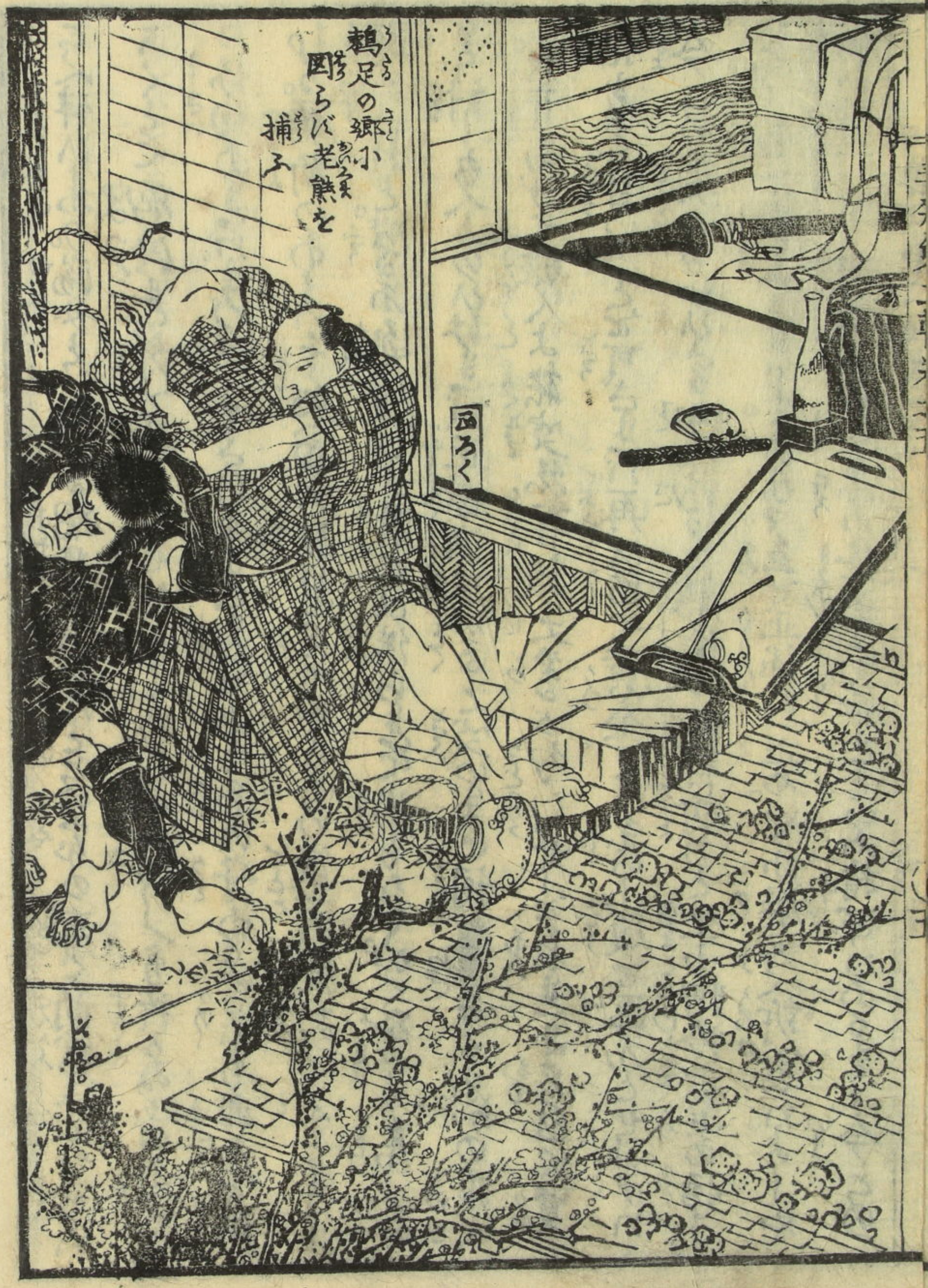
ぬるの全く天地の賜ゆん栄耀榮花と甘よとみあはれ勝成せりつてあふ窮乏。
 恵むべしとのてあふんと誘ふあふのうらふ今いふはく小人の情みひうとて物と
 惜その成の建よとのと訪びぬるこそ増けまこと微笑ば浦平をそらるる流
 芳人情のこ聖賢とやふあふとぞのひびくことあふと。とうち知ひて後方
 と顔こまごそのれゆ乾うひと今日ゆも日中近し。あふ永と目おあもるく安
 閑して居まば食うひのこぞ必りつと。ひひ小奴と呼をつけ。昨日の酒の
 残りがあふば妨すて此処へ出せ酒魚をそ處お在合の芋小夏肉の考深
 ても苦くじと指揮まを俱の小ぬを早速お持出さる酒般兩個が同へり
 居まばいごとて浦平猪口把あげ。二ツ三ツ酌つさま。今障ふも替陶一と
 椽と瓦落裡とあひ放ち。庭の木州とうち海めせのちや榎もさくはあふふら
 涉まへ山腹ゆく。遙時辰の後流ぬや。白さの散とけいや咲初る梅の花あきく

祝の人の本修のさむもあふと。と兩個の頗る奥お入をまづびもまご五ッ
 六ごよるく碎とそまを。忽地女の泣声く。許しの人よと放ちくと捕へれ
 ると振切る動静おをうくと池まを免えまごこのゆさ故もをまご
 志お花入。兩個の抱りおえ合せのまご免角もつとさる所お眼お小紙
 骨高く月代一寸むのり伸び背の鴨居へ寄るるとあていと藪かごと大流
 士かの女を逐来せじごて入下すとくうらうらも。裾と両お引替りて矢屋お跳
 ま入らんとひ浦平の年とをまごまごえ本刃骨逞はく若と折あひ相撲と
 とる腕お骨えのあふぬおまとさるより彼漢士が向鷹駝と押へはけ尾流
 ちる頼人よる。まごまごより狸の吾が借切さる敷めて。家もひあへ入らと懐
 りぬとあふ。その赴を断りて後お入へとまご二兵と小踊込んとする。无
 礼のまご許がじ。そめく。改の何者そと叱り付まごかの漢士の眼と睜と懸

くら。これ汝等小要の。今こゝ逃入る。處女と捕ふ。入る。と
 ろ。入らびとよ。處女と更けて。高胡坐白眼つめれば。の
 處女。猫小逐ま。鼠の如く。敷の隅小身と縮め。鼠由ぬ。わけ。は。鼠小震ひ
 戰慄。涙と俱小技け。人。と。居。浦平左右と。依と。絞之。正。邪小。眼。と
 處女の方。うち。對ひ。と。處女。已れ。も。ま。尾。終。る。挙。動。る。二。應。の。羽。も
 ろ。慢。下。小。口。坐。敷。へ。逃。込。と。技。け。よ。の。什。麼。の。度。そ。の。條。三。五。の。條。も
 び。逐。は。仔。細。の。あ。ま。り。こ。そ。逃。り。す。も。逃。り。す。ん。傾。出。よ。振。り。ま。の。と。り。の。引
 せ。さん。と。後。ま。げ。い。と。身。と。縮。め。喃。情。り。技。け。七。後。と。い。ろ。他。の。羽。も。下。正
 縁。の。形。を。改。め。彼。女。の。うち。對。ひ。て。窮。鳥。懐。小。入。と。い。い。猶。ま。ゆ。こ。と。と。捕。ら
 せ。と。い。ふ。その。痒。沢。り。も。わ。れ。も。こ。坐。敷。へ。逃。入。り。て。只。管。技。け。て。是。よ。と。い。ふ。その
 縁。故。の。い。ろ。の。條。を。包。ま。で。疾。く。宿。る。若。君。が。力。を。て。扱。う。は。仔。細。る。べ。

袖。う。あ。の。を。も。縁。と。こ。ひ。げ。扱。ふ。ま。だ。さ。の。の。由。中。ひ。乞。その。動。靜。を。宿。る。と
 問。れ。て。處。女。の。ち。ろ。ろ。落。る。涙。を。屢。り。拭。ひ。宿。る。も。面。を。紅。く。り。と。ろ。の。あ。れ。と
 身。の。上。と。二。海。を。中。で。後。妻。が。生。ま。る。西。の。必。と。波。ら。る。ま。せ。老。所。の。あ。ら。び。稚。さ
 と。は。不。仔。細。あ。つ。て。故。々。と。離。れ。後。と。呻。吟。近。曾。信。濃。小。由。縁。と。索。め。て。索。め。て。索。め。て
 い。是。を。狂。め。て。木。曾。の。麻。衣。身。小。纏。へ。ぬ。ぎ。る。ま。る。ま。る。と。父。の。持。病。此
 痛。小。問。ら。ま。し。既。小。の。世。で。退。く。誰。と。便。す。小。朝。夕。の。煙。下。と。さ。る。便。術。る。

友。小。を。さ。さ。下。後。十。多。父。お。く。と。歎。き。て。甲。斐。と。そ。る。け。は。孤。獨。の。宿。ら。み
 人。も。あ。ら。ま。ま。小。波。あ。と。上。野。の。い。さ。う。心。當。り。あり。多。名。と。さ。る。と。い。ふ。と。これ。ど
 新。の。草。津。と。波。の。う。ろ。常。と。さ。え。む。や。と。ら。ひ。こ。ら。僥。倖。彼。處。へ。往。人。あ。る。を。持
 ち。て。俱。小。を。ち。出。せ。法。津。と。ち。ろ。の。雞。石。へ。さ。か。せ。小。さ。ひ。ま。を。連。る。あ。る。人。の。急。心
 病。小。辛。小。果。ら。る。折。ろ。荒。く。漢。上。の。出。來。を。去。庭。小。妾。と。引。捕。へ。後。小



と不理不承あり。抱あふ汝を引縛し。魔不連ゆき罪を犯さん。指めより此の
 ども。これく政不ある。身ある。抱まむ。處女に救ひゆるとも。汝を殺さば。善善も益
 ぬ。こ不於て黄金を出し。處女を救ひ汝をも。扱けん。計らひある。を刃のやど。おろぬ
 多の虫。自ら赤で火に投。自。抱。や此うへの許。計らひある。を刃のやど。おろぬ
 不ある。と僥倖と。欠。處女。抱。め。漢士も不敬。の。腕の。腕力。握
 手。握。め。拳。どうち。抱。り。や。へ。う。も。抱。か。る。と。扱。ひ。ま。ま。と。浦。平。の。名。を。言。ふ。の
 隨。法。く。加。藤。正。孫。及。小。奴。二。個。も。近。より。て。手。楸。豆。楸。動。を。各。比。難。る。く。搦。め。捕。て
 けり。當下。湯。宿。の。今。泉。の。物。音。も。せ。あ。り。の。舂。と。と。て。う。ち。後。と。か。何
 ある。伏。せ。と。同。わ。ど。不。正。孫。へ。得。難。小。次。才。と。か。ま。ま。う。ち。長。次。高。小。僕。小。應。對
 まで。處。女。と。湯。女。小。治。ん。と。の。勿。論。處。女。の。口。を。控。り。と。の。ど。合。点。の。の。う。ご。ま。は
 ま。相。譚。と。り。究。め。て。後。小。を。後。方。の。め。と。何。れ。も。く。治。ら。ぬ。湯。女。も。見

えびこの漢士も。俱小入る。必び食らる。な。ど。小。出。せ。や。と。ど。ひ。小。怪。る。ぬ。の。う。り。
 僕元来この沙ゆて。目的と。做。く。ま。ま。凡。七。三。十。里。四。方。小。住。る。惡。兇。等。の。大。さ。
 知。里。の。後。ろ。小。近。曾。の。不。小。温。泉。涌。て。諸。國。より。人。の。入。込。郷。と。な。り。湯。宿。さ。入
 小。木。ぬ。ま。ま。僕。も。湯。宿。と。り。て。渡。せ。と。す。り。の。う。り。若。も。无。頼。の。惡。黨。あ。ら。ぬ。
 搦。捕。て。指。出。せ。よ。と。陣。代。の。内。意。と。ら。る。ま。ま。由。知。さ。む。引。せ。女。子。は。湯
 女。小。治。ん。と。を。引。連。來。る。の。勢。と。抱。て。火。小。近。づ。より。愚。み。白。痴。と。く。人。質。容。易。が
 斯。の。ぞ。く。做。し。の。い。ど。と。の。時。と。後。さ。び。搦。め。捕。ま。曲。者。あり。大。う。渠。も。これ。と
 知。し。吾。の。よ。く。渠。と。知。ら。う。の。漢。士。の。陸。奥。産。と。始。め。の。医。所。と。業。と。し。て。
 名。で。老。態。と。呼。ま。る。が。大。胆。不。敬。の。殺。者。少。女。を。殺。し。か。の。地。と。立。退。り。ま。ま。う。り
 後。も。さ。ら。ぬ。の。罪。と。犯。し。て。不。と。と。経。歴。近。曾。の。沙。王。流。ま。ま。常。小。後。情。と。り
 くの。良。民。の。害。と。い。ふ。ま。ま。と。く。人。質。と。す。後。の。さ。る。大。罪。の。犯。さ。後。後。に。て。な。ぬ

小枝けりまが。旅の處女と句引きて罪の万死おぼせり。今日こそ
 適さうと云ひ居る。不ありと云て老態迄と擡げ。今泉卒示せ。これ老
 態と云ふの。元來陳寔をまてあり。と云せぬ。敢て今泉が陳寔をまて
 あり。はなれぬ。以てあり。医師の美似て居る。しが。の法へ来し。はなれぬ。養を牛を
 姿と抱え。え。ま。ま。え。の。よ。く。知。の。さ。と。頼。抵。工。の。あ。ま。ま。と。叱。り。付。け。れ。不。敬。ある。
 老態あるま。と。号。え。ある。牙。の。信。守。小。形。赦。して。返。す。詞。の。あ。ま。ま。と。正。祿。の。孰。と。
 顔。雲。時。うち。瞻。望。さて。今。泉。小。對。ひ。て。い。ふ。や。う。の。よ。く。這。奴。陳。寔。の。医。師。老。態。不。
 差。ひ。る。の。在。下。小。場。つ。く。是。より。志。不。曳。り。て。飯。を。恨。と。雪。じ。る。の。あり。鬼。
 ころ。の。あ。ま。の。合。兵。は。は。し。押。と。ま。さ。る。老。態。不。責。殺。さ。ま。ら。女。と。い。の。外。か。漢。の。
 猶。ま。あ。て。安。方。と。い。ふ。の。渾。家。あり。仔細。あ。て。の。兎。千。代。童。子。方。小。狼。ひ。お。死。
 今。千。代。松。と。更。め。て。十二。歳。あり。侍。ら。母。が。非。業。の。死。と。執。り。且。暮。敵。老。態。不。探。

會て。太刀。恨。と。母。が。眞。女。の。妾。執。と。晴。さ。せ。う。と。う。ち。怒。け。ど。ま。ま。十二。歳。の。小。腕。と
 いひ。侍。方。の。お。ま。ね。敵。の。在。不。と。守。ぬ。べき。力。の。あ。け。ま。ま。い。紅。淡。小。沈。む。の。こ。
 推。な。け。と。ど。も。孝。心。の。深。さ。と。奈。し。在。下。の。平。生。小。涙。と。流。し。これ。武。門。の
 小。小。の。あ。ま。の。能。ま。も。小。小。の。志。死。い。る。と。の。俱。小。力。と。助。け。い。る。人。の。商。人。の
 才。の。詮。方。あり。年。十五。六。小。あり。て。敵。と。索。信。お。出。す。と。年。者。お。ま。ま。ば。つ。と。不。
 惜。ま。う。月。と。目。も。を。や。て。よ。と。渠。が。為。小。小。を。う。ふ。ら。る。を。じ。れ。る。小。考。ら。ひ
 その。敵。と。吾。と。が。搦。め。の。天。千。代。松。が。孝。と。感。上。て。授。け。あ。い。の。の。と。是。の。嗟。む。が。こ
 や。辱。あ。や。と。雀。躍。す。と。浦。平。の。始。め。て。ま。ま。の。ほ。何。と。ま。在。下。の。平。生。ま。ま。り。
 人。並。る。ぬ。少。年。と。と。い。ひ。り。が。斯。や。り。孝。心。深。さ。者。あ。て。あり。や。は。小。の。天。
 嘗。え。る。ん。と。感。傲。の。他。の。當。下。今。泉。の。正。祿。が。物。語。と。受。て。ら。ち。息。吹。き。を。の
 奇。し。き。因。縁。あ。て。と。ま。ま。の。処。理。あり。ま。ま。の。僕。が。了。張。と。り。け。け。ら。ひ。難。し。ま。は。陣。

代へまゝと指揮をりて計らふべしと申さる訴状と認させ土地の甲乙属係と陣
代へ行々小時刻を後さる陣代より。檢使の役人ありて猶正祿等と訂し向且
老態と申居て身小骨えありやと借り向小治の兎角小のひ格へ降し小けれど呵責
の旨小堪えらるて佛本小懸念心小後えんらるて責りしに脱くも死しはらふら
孩さ頼小故々と道玄やまより不とと排徊とて急支と做し一伍一什と落
るく首伏をとりしうへ後人具小書圍め。然らう人の正祿がそりたる不小差のむ。
然らうのう國程の罪人商人の違ふまじ此方より新深る。知縣へ送る遣のま
べけまへ敵討のるのりも。彼処へ願めて計らふべし。最罪の強もこの白状を送る
まじ不申さる知縣へ願ふべし。さて亦是るある處女のみ。その在在のものを呼び
引渡さるさるるまじと親同胞とのりのるく知音さるるといふは後まじと
祈もは。既小正祿浦平等。その薄命と憐れと十枚の黄金と出ても救え

とせりのあるまじ。你達今より引受てよ。然小計らひんとさる。その上正文と
献つま。とあるふらうて正祿の忽地小領掌。畢竟の處女下僕が借切さる坐敷の
狸へ近入るまじと日未より。索める敵も頼小おまされ面ひ格めて命やぬれど
次と関係のありやと受て。苦かまじ下僕小下し格ひと正文を献らんと仔細
る。ゆらふといひければ役人の息ひて則今泉小指揮と老態と新深の知縣へ送るまじ
準備するまじ。正文とも認めさせ處女と正祿浦平の兩個小違ふされしうへ。
命と大小安堵と斯るう人の一刻の急ぎて既平代松小も。ひき寄せて飲ませ且知
縣へ願ひあるまじ。若ても必ず下とて小奴等小も心得さ何くまじと拍すれば。小
長き春の日の。落暮近くるまじ。ふその夜いまうと小泊す。明日早天と出まじ。
と夕胸みどは舞々。四多の静小ありひまじ。かの處女に恐る。兩個があ小多と
つえ分の薄命と憐れと。扶け掲り大恩の死まじとも忘まじ。向小の才の素性

粗きしむる危難の迫る折柄にて詞の先後は及ば分がらや在
 けん。爲少の親も同胞ありとこそ言せしが、實は二個の弟あり武者修めを假すと
 言しと家ささち出ら其後弗も便すもる。生死も圖すもる。上世の方
 在と申ん。凡の便も女ささち若輩と會てりやと彼国行くさち出ら。心もさ
 せぬくなり。猶も同胞ありあり。吾の劣るのこゝろは、不さ定め柄の移
 知音の人さあはれて。かゝる果敢るは方の上ささち死さとも厭ひはれねど文が
 今程果さ遺せし。とさ弟も豫令告むる孝の及もさ下。と一男もあはれはる。
 外と捨るも未練も逃呻吟て留らばも。涙と恵とを受えたる。人ささち
 幼れ怪し。ささち不辱あり見し。うらなはる業なりと命さるはの働さして。恩
 義と報ひあさるさ。妻が名さ幼稚より。糸柱とあらん呼まわら。惚つじさ
 とささる。ゆとり喚換あり。とさ結恩ある人。虚さりて若る。心の裡も

はらへば。在の陸ゆのひご。涙と折さ合せて。のみく。信義のある人
 と。ん定め。ささち任て。實さゆさ。と詞と彼る。その場の氣持。正
 孫浦平とさ。さ。命ありとも。和女弟が下。さ。稀る。た。い。
 吾の窮深ゆ。貪くもあは。暮さ。の。幸ある。人と救い。その富も何の
 要あり。さん。吾們が。天への。勲め。さ。心さ。ひる。せ。所。在。さ。さ。ぬ。さ。が
 性。方。と。索。ね。巧。吏。も。ま。さ。あ。ら。と。い。と。伝。言。ある。詞。と。さ。さ。ぬ。の。は。は。偏。ま。は。れ
 涙。小。恃。母。あ。こ。と。さ。ひ。け。さ。

第十回

火筋と推して千代松胡蝶と母貝く
 千代松老態をけて孝養も値ふ

再説正孫浦平等の。その内の朝ま。さ。糸柱。及び。小奴。等。と。引。連。て。さ。ち。出。ま。ら。ぬ。
 さ。る。主。今。泉。の。か。の。老。態。の。囚。人。と。陣。代。より。稟。把。つ。た。中。を。固。の。め。め。と。て。

陣代より副らる。歩卒五名と後俱小老態を引きて惣足の下とて出立。僅小二月半おて。新浮湊へ列せしき。當下の知縣へ通ふ。正祿参の夜と早ぬ。半日お小家小飯とて。吳竹と千代松のそととて。踊り出。後小舞りて。二日二日の程。よく。當の世よと宜。とまるとひゆりし。あどて。最長より。何処へ。住び。定。居。多のま。待りび。その内。正祿の吳竹。瀧の。後。を。替。て。吾。居。ず。とも母も在。千代松との。兄。あり。淋。き。り。よ。あり。是。代。扱。の。後。泣。う。ん。ゆ。れ。と。ひ。や。糸。拵。と。指。さ。て。お。ん。身。等。が。伽。あ。の。た。處。女。と。一。個。お。て。ま。り。この。處。女。の。花。拵。び。折。形。も。ど。も。の。ま。り。と。ぞ。さ。て。ん。若。い。と。放。せ。と。楸。下。袖。の。子。と。放。さ。せ。果。て。ん。ま。の。當。下。小。深。雪。の。昨。夜。の。宿。酒。や。今。ま。で。仕。方。針。卷。の。眼。の。額。の。左。右。小。遺。で。例。小。換。る。腫。腫。渡。と。と。て。出。來。り。

今二廻でも在。と。お。ひ。い。と。早。り。病。ひ。の。爲。と。急。す。や。再。と。て。お。も。さ。と。び。と。ひ。も。終。ら。び。正。祿。が。吾。も。拵。と。て。の。ま。り。が。病。ひ。の。大。き。快。く。殊。小。火。急。の。筋。あ。や。て。遠。く。飯。ま。り。と。り。小。深。雪。の。糸。拵。と。後。眼。お。ひ。と。喰。さ。い。做。し。く。僅。る。れ。れ。も。縁。の。空。淋。と。夜。半。の。折。小。へ。反。初。の。戲。も。後。と。て。暮。る。人の。情。年。老。ぬ。ま。り。自。拵。と。て。む。ひ。の。と。や。豊。小。考。ま。て。お。ん。身。の。上。の。若。う。と。願。つ。の。何。方。の。誰。の。女。見。と。れ。も。妹。と。れ。そ。の。素。性。も。ま。り。の。小。せ。ま。終。し。き。と。今。日。の。李。郎。が。妻。と。あり。翌。の。張。氏。が。伽。と。ま。り。仇。女。の。心。を。小。後。で。て。女。ま。り。ま。り。召。は。れ。俣。女。等。の。侮。り。の。か。や。か。と。未。治。ま。り。ね。と。の。基。の。久。松。も。も。あり。真。日。中。小。り。と。思。て。是。程。よ。り。小。伴。ひ。の。妻。や。小。の。は。因。せ。と。の。心。も。ま。り。あ。り。の。と。鬼。や。角。の。も。機。小。情。ひ。各。れ。疾。妬。の。拙。り。と。呵。り。怒。り。の。ま。り。と。猶。倍。る。れ。と。一。ま。り。の。ま。り。

妻の彼おぬらうと。いひも果ね小正孫の駭然とちあひいり別ね處女とて來ぬ
 まの格足のいの湯女ゆと早くあてたけりゆゆの弱官やとあつる程といひ
 けとどの年老らう。あがかりのせたるとあらん。この處女のみお就てのあや音さ
 話説のそのお世ののみおより。その悪光と引捕へ小その悪光といひついで千代
 松が方と顧みる汝が日本母の故と悟めくおの陸奥の医師老態とるれも果さの
 今泉がゆふをわぬ因て彼老態と吾小得させよと特じうとお對ひての件
 らひついでと道様とあて當所の知縣へ違ふらうお若あまはひよく原書と
 認めて知縣の廣吏奉てかの老態と乞借て然して汝小故と付せ孝のなと果
 させんともん斗を遷ち取の由把取を夜と目小副て飯するらうと糸社が
 となの源のく洋小物とまの千代松の字と書一雀躍あつてうち歎び且正
 孫とみ并とあひひくも母の故老態のゆふ小入とてとてあまも現ともあがえぬ

まで小辱るさる。あん情の九ツのその摺るとも忘まのあはじ是保るも母亡天君
 が慈愛の深さをとて守りて守さるゝのあつる。後とよと原書と知縣と却て老
 態と乞借る一糸とけらひせのうとと痛一涙おうさうとて。特めが正孫うち息
 次そのこの安心せよ既小格足で刑罰おらるるべきに収るまこととち教ひてりて
 の所まで送らまはる極るまごのまごの仔細あり。さるるる老態の面魂違へ
 武痴の正のいさおとねと膝力に飽ませ強さのあり心の跡武小早るとも汝が
 小腕渠お及に備付使さる當下小腕と唾とも更小益は。知縣へ愿ひて待り首
 と打お着とと吾のゆも是等ののり今泉小商後とけらひとといひも果ね小今
 泉かの孫云國の歩卒引つて勅也とと入来りるらあり額着礼は。さても件の曲
 者といひ今も知縣へ違ふらうが格足の陣代が副仕小粗書裁らるるとて當所の
 蟹原屋正禄が敵討の形ひ小因て引渡さるる強るまごといひも正孫よりとち出ひ

汝もて集と促し卑く云くせよ且その務なるは千代松とのりものとも
 俱小右連来るべしと命せしませぬありとけり正祿の會釈して
 何れもいませざるべしと遣作懸て氣の毒なる尚ある人の不とも案不
 せんとて用算首の小管より金把出紙小檢を今泉及び歩卒とも小左少
 りと指せしむる顔と接する是れわらわらと歎ひ収むるその折々正
 祿の渾ぶ小對以武久助の方小居るを原書と書せん小松と呼ひ秘と分付
 深雪の坊小回答せし後の方と見かへして婢女と呼近づけ武久助の感胃ぬと云
 りて居る方小在や檀那の筒小飯らまてわらわら要のありとのみ痛愛
 由さのこゝろの此処末よと傳へると受て婢女の突く程由あせし武久助の
 寢衣と身小纏ひ髪の敷と指とりて掻揚るゝあり此方平て正祿小
 の他小早き飯に温泉の相應のひ下僕もあはれ時侯中より氣分

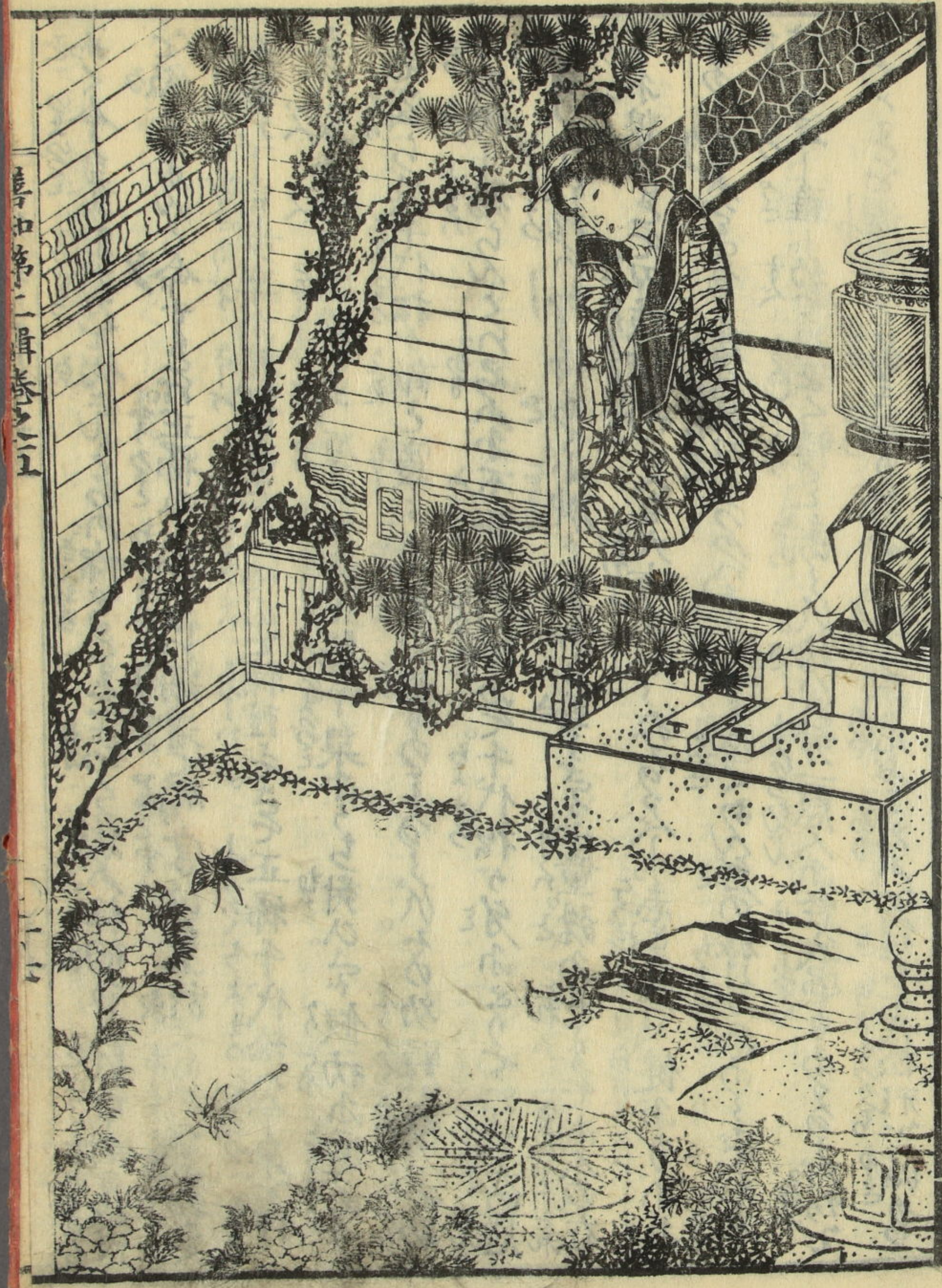
勝とてお師でいといへ正祿人々今泉と指し轉足の歩卒と此処小居
 依小見昔とこそその景勢はめんといひかまもま不興ある人と心小収め不快
 とある小物分付人の心あけきと箇様との次第あて松小愿とを知らるる汝一
 筆認めよといふと武久助小片无性小現料紙と把せし書を携さし連と
 名を叔端作し何と云わぬあるとての草案と云ふと云ふと云ふと
 兩の心で懐へさし最不殺の景勢あると今泉のいへて把けん免れと
 進みより波尾と云ふ取ての知縣小呵らさしへ一氣分も傍き文法も不
 知案内の伴刀柄より吾も書の手跡とを懸けきその要の辨と云ふと
 下僕が認めんと云と採りてと書り讀あげて是れ仔細の事なり
 居る人といふ小正祿懐中より印とり却て押を寫し深雪よ卑く千代松小
 るえさせ袴と履せよと云と返せし深雪の怒と云ふとあり

肩と入る内外の強さの一方あると昔勅給双糸巾あると云ふ事あるに依りて
 可此方より返り付ともあると云ふ事あると云ふの内小喧さるる此方へ来よと千
 代松よりと苛しく引きて納戸の方へ入りしが程よく衣と着久しと云ふ事
 まる今泉も去来とて去る事なし。正徳千代松小奴と引つと知縣へ至ま
 今泉が案内の因て願書を指しひると此方へと白洲の方へ喚入して知縣の
 威儀で取ひ這回願書の一件特是の副状あると願書の色許を正しと云ふ
 ろる陸奥の外へ渡る備えを安方とせんが事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 紛らふと云ふ事ありと命小正徳と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 理より持まを養ひ小いと利発する者ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 敵を捕へま渠小付と本懐と遂させま欲くいと云ふ事ありと云ふ事あり
 平生と陰謀あるの吾も粗波及びぬ商人少の稀ありのぞと数回杯酒ありと云ふ事

千代松と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 子との事と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 の四方小竹の行馬と補理吾們及び下司との除ね十の歩卒どもありと云ふ事あり
 非常と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 商人の事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 打しあつた有難いといひ畢らぬ千代松の正徳が袖と曳き上りの命ありと云ふ事あり
 死す者ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 少年なる天晴と感ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 少年なる天晴と感ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

幼弱くして、首を打ちつとも、能くことと比法とせん。刃のさ際と懸てん。
 自ら死地不就ぐ。思慮あり、せぬと返付し遭とも、猶孝のたをそ。
 理小似し。その父の遺骸あり。生涯毀ひ傷らぬと、孝子のたをそ。
 よく思ふて、死よと痛むる。千代松の思も、今を願着々。返し奉る。
 いとも思ふて、下僕既し母の遺骸と伯父あり。人小伴りて、故を立出ゆと。
 伯父の暴の病あり。茶おめ小性、迹少て盗賊のたをそ。伯父の敢る、討果
 ささ衣類を剥ぎ、赤條とて親不知との、穢除し捨て在はる。體をそめ、何れ
 とも詮方なく、海へ飛入て死せんとせり。生憎浪小らち返さず、涙ふ不と情あり。
 高野非事、理小救りて、まより後の正縁。若く愛小より、今日までも、不測の命と
 存生する人の情と、天の恵と、死あんとて、死難はの、命小とを
 徳と、敵の何れも、剛の老あて、いと。その刃、天運小、懐ひるが、付はぬと、よも

けり。備も、渠小付する。母子は、渠が、死すき、あまの業、固く、何れも、
 怨も、曲て、武法のや、敵討を、做さ、め、人、と、云、ら、り。この折湯宿の、今泉も、
 後方小、樽に、在けるが、この、何と、受より、も、い、ま、ご、幼稚りの、あて、斯、孝心の、深きと、
 世小も、稀る、少年、う、と、漫小、涙の、落る、を、そ、え、び、あ、そ、く、膝を、進め、
 孝心、心小、感、し、ひ、の、う、と、牙、不、肖、の、い、へ、ど、下、僕、助、刀、を、安、と、敵と、
 討、ま、り、し、て、此、許、あ、る、が、有、難、く、い、と、い、ひ、け、ま、ご、知、縣、の、是、を、え、か、へ、て、そ、の、
 い、と、易、き、愿、ひ、の、條、件、を、小、何、の、係、細、う、あ、る、と、助、太、刀、を、て、ゆ、さ、せ、ん、と、
 り、う、の、汝、腕、小、覺、え、あ、り、や、と、問、ま、て、今、泉、路、を、擡、ぎ、え、あ、り、と、云、一、と、ん、の、
 鳥、辭、ま、り、く、い、へ、ど、若、き、折、少、の、世、を、か、り、太、刀、技、術、を、習、ひ、し、の、あ、り、ま、ご、ね、さ、
 む、の、い、へ、ど、此、許、あ、る、世、の、人、と、再、び、い、つ、が、知、縣、の、是、を、正、縁、千、代、松、系、の、今、泉、



火箸を飛
千代松
樹を
あはそ

且言... 心をけりて... 未熟... 今... 鹿...
... 雀... 早... 傍... 火筋... 把... 庭... 投...
... 時... 花... 燧... 盛... 争... 牡丹...
... 霏... 羽... 甜... 左... 翔... 右... 飛...
... 霰... 礮... 落... 正... 泉... 酌... 侍... 女...
... 嗟... 妙... 時... 今... 泉... 扇... 把... 千... 代... 松...
... 天... 下... 僕... 斯... 伎... 術... 有... 知... ね... 和... 子... 動... 靜... 尋... 常... 少...
... 童... 深... 本... 存... 有... 下... 助... 刀... 強... 願... 小... 果...
... 凡... 二... 術... 称... 讚... 数... 回... 正... 孫... 夢... 満...
... 面... 笑... 合... 嬉... 物... 雲... 時... 形... 改... 考...
... 異... 測... 測... 測... 伯... 父... 人... 習... 此... 家... 半... 年... 餘... 亦...

及びぬ... 業... 勢... 二... 面... 見... 丹... 煉...
... 伽... 陵... 頻... 迦... 卵... 其... 声... 徒... 鳥... 筋...
... 實... 九... 者... 渾... 家... 振... 此... 勝... 負... 争...
... 左... 右... 視... 渾... 家... 振... 此... 勝... 負... 争...
... 火... 筋... と... 蝶... の... 侍... 女... 把... 抄... 深... 雪...
... 笑... も... せ... 感... 心... の... ひ... 温... 順... の... 性... 温... 順... の... 性...
... 酒... 温... め... さ... 再... び... 今... 泉... と... 飲... 侍... て... 四... 方... 八... 方... の... 物... 語... 亦... 其... の... 目... 暮... 及... び... 及...
... 聖... の... 准... 儀... 依... 取... 依... ひ... て... 歌... 三... 三... 三...

作者曰九七手裡劔の術の上古の世の世の... 鷹沼太郎則友... 千代童... 授... 技... 術... 受...

普之世よ小流布まことのり。千代童正統の家ありてより。人目と忍び林桂の
 如く。且暮とまを調煉し。竟み抄みあむ。この人ぬを知らずとあり
 再説よ夜のめけ。食死をて選し。朝胸をまき。千代松と今泉の白雲
 后の小袖と着し。袴の裾と高く掲げ。大小と様々。て。かの場へ到り。さるる
 老態の二挺の囚人。後ふらち。案せ。大勢。是を。行馬の狸小早居あり。
 得る。知縣中。道。小来著あり。こゝより。正保浦平。その他。地。の里
 長ども。列と正し。と。命。の。狸。の。左右。小居。る。當下。知縣。床。机。小。か。里。
 老態。と。使。り。引。出。也。此。の。の。り。さ。り。て。お。て。縛。め。の。索。解。さ。る。る。老。態。の。雨。の
 腕。と。搔。麻。の。を。欠。さ。り。吾。と。敵。と。竊。ふ。奴。と。千代童。と。の。少。童。よ。り。の。お。の。の。
 母。錦。木。と。責。殺。し。る。骨。を。え。あり。い。で。汝。と。母。冥。土。へ。遣。る。お。の。の。母。對。應。乳。を。吸。て
 する。千代松。が。方。と。白。眼。つ。あ。ま。あ。が。じ。と。得。物。を。い。ま。げ。り。さ。る。と。は。逃。げ。ぬ。祝。

やまど塵さよゆあかき掃ひし。行きの狸の物のり。時小千代松の泣く。と向
 へく。途。と。より。の。小。老。態。を。え。あ。ん。吾。と。の。汝。が。為。小。非。命。お。せ。と。選。り。ひ。つ。る。
 錦木。が。の。千代童。の。れ。恨。の。又。と。稟。よ。り。二。刀。も。わ。る。る。容。子。と。砍。ん。の。
 身。小。甲。斐。は。せ。れ。と。吾。對。あ。ん。と。己。が。帶。る。刀。と。鞘。の。も。扱。の。り。の。ゆ。ぞ。
 老態。の。と。ま。と。行。て。扱。の。刃。形。不。似。合。さ。る。膽。を。さ。少。年。よ。り。と。石。骨。小。五。五。の。怖。
 と。と。生。下。雲。時。の。も。と。小。さ。り。一。ダ。斯。て。お。止。ん。か。の。二。刀。と。極。拾。ひ。ぬ。さ。り。て。い。く
 汝。が。望。小。任。せ。その。身。の。又。小。の。身。の。命。を。預。さ。せ。ん。と。い。ひ。の。果。は。電。光。の。如。く
 見。り。と。ま。と。と。ち。揮。て。足。を。さ。り。切。て。墓。と。千代松。の。指。副。の。二。刀。と。扱。扱。ち
 斥。打。小。砍。ん。と。ま。と。と。老。態。身。近。く。倚。つ。け。最。刀。の。寸。尺。伸。び。賊。を。り。の。大。位。と
 の。蓋。小。鬼。つ。て。打。お。む。刀。待。遇。う。て。足。え。も。四。途。踏。み。る。ま。が。知。縣。と。扱。め。被。殺。す
 大。の。と。小。の。汗。と。扱。と。折。く。大。吉。揚。助。太。刀。今。泉。是。の。あり。千代松。心。を。定。ま。り。て。

奥のまゝのどろむ。佐助のこまを犯して老態を後まき。柳行徳の体もろく。千代
 松縁で懐中お貯け持し手程短と把持しつゝ。せむをうくと。繞て四五本うち出
 たり。小鬚着てつゝ。或いは眉間或は利腕眼の潤をどく。打付らまて老態の
 こ。奇怪と驚燥て拂ひ除んと多けまど。跡よりゆまら。繞て打。そのさ。昨
 蟻の群。花ぞ。拂ふ。連のあ。男眼。足血。志。の。流。ま。入。す。今。の。働。く。術。さ。え
 る。こ。で。忙。れ。る。その。あ。千。代。松。池。寄。り。方。を。究。め。務。尾。と。目。が。け。突。透。せ。の。あ。ろ。の
 以て。怖。る。ま。ま。その。ま。ま。さ。さ。忍。小。例。ま。で。糸。が。つ。て。髪。を。抓。ま。竟。小。止。と。刺。け。ま。い。け。つ
 肩。つ。つ。小。と。呼。び。喚。び。を。修。り。て。小。汗。握。り。を。脱。ぎ。正。浦。平。と。指。し。食。二。容。小。踊。り
 して。飲。び。あ。の。ど。勇。志。を。是。より。行。馬。の。外。面。の。旗。の。こ。ろ。く。その。ま。ま。は。え。近。に。在
 在。の。老。若。男。女。敵。討。人。と。懸。ひ。集。り。行。馬。の。竹。小。路。で。上。と。り。へ。と。疎。合。を。見。拍
 做。り。は。是。を。犯。て。嗟。刺。道。う。り。と。答。罵。る。声。響。時。の。止。び。か。そ。知。縣。千。代。松。始。め。

一同小喚。近づく。本意を達して満足ありん。實の少童の働の吾屢感激せし。と
 末持母の少童の用心を用ひて養ふ。今泉の大儀ありし。と命小命。有
 難。と平伏わど。小徐と。飯と。行て。飯ら。ま。り。俵。も。千。代。松。の。西。小。對。ひ。堂。と
 合。の。母。の。亡。去。と。拜。し。正。孫。及。今。泉。浦。平。始。め。見。小。就。て。出。張。做。り。人。小。
 厚。の。礼。謝。と。述。け。ま。い。ま。小。會。新。と。敵。討。と。飲。び。寄。り。各。々。と。引。拂。ふ。正。孫。の
 浦。平。と。今。泉。と。家。小。伴。ひ。首。尾。の。敵。と。討。課。せ。し。も。こ。ろ。お。ん。力。が。賜。あ。り。と。て。
 さ。ま。い。小。款。待。つ。且。今。泉。少。の。金。銀。及。び。衣。服。ま。ど。と。把。出。て。這。回。の。因。心。小。例。ひ。ん
 と。ま。て。今。泉。の。俠。客。あ。ま。い。決。之。栗。と。の。ひ。け。り。と。正。孫。ま。く。細。を。ま。す。荷。小。受
 納。せ。し。その。夜。の。り。が。家。小。抱。め。の。の。目。精。足。飯。ら。し。ね。任。而。正。孫。の。千。代。松。が
 才。と。感。た。ま。と。答。て。の。り。女。兒。異。竹。が。婿。と。る。千。人。こ。心。決。し。津。家。の。深。雪。小。後。介。小。
 深。雪。の。故。小。善。と。の。り。異。竹。の。ま。ご。幼。稚。く。て。必。未。送。け。こ。こ。る。の。り。と。う。わ

おん心でして。末の固めをめぐり。年閑生心付れ及びて。あはれあはれ。人馬ら
 き。今三四年。こぼれけり。おのれ。遅くおぼく。と。鬼おかく。進まぬ。面持る。と。絶て。云
 ん。お家の。の。悪。基。あ。んと。その。候。か。て。ま。正。同。恥。の。多。く。し。て。ま。つ。せ
 妹。と。呼。せ。心。裏。あ。る。養。ふ。の。の。幼。稚。け。こ。も。何。怜。子。代。に。恩。と。感。下。さ。し。侍。て。
 い。と。大。切。お。は。え。け。る。爰。お。糸。を。い。の。指。め。深。雪。の。湯。女。と。思。ひ。と。そ。會。狀。の。恩
 か。く。と。ま。る。ぬ。よ。の。お。心。を。こ。も。猶。こ。も。と。欽。む。い。を。し。し。お。怨。恨。あ。り。て。
 涙。の。の。を。夜。の。あ。ま。と。ま。お。い。つ。え。正。祿。の。便。る。こ。の。と。情。こ。も。ま。あ。り。ま。こ。意。お
 ろ。の。心。配。と。る。す。ゆ。ど。お。その。恩。義。お。絆。こ。も。こ。も。お。月。日。と。送。り。多。く。畢。竟。是。の。の。お
 ろ。及。平。太。郎。良。門。が。信。ま。こ。重。太。郎。お。右。助。の。再。會。第。三。輯。お。未。だ。説。下。者。在。宣。く
 発。市。と。候。て。高。評。と。賜。へ。う。一。

善知安方忠義傳第二輯卷之五 終

書

林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同 南傳馬町壹丁目	山城屋政吉
同 下谷御成道	英文藏
同 大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
同	和泉屋吉兵衛
大阪心齋橋筋本町角	河内屋藤兵衛
大阪心齋橋筋博労町角	河内屋茂兵衛板

